

アマモリバイバルプロジェクト

木村尚・塩田肇・林しん治（金沢八景 - 東京湾アマモ場再生会議）

実際に主役としてやってくださっている子供たちが、どのような反応で、どういうふうに動いてくださっているかというのは、「西柴アマモ隊の活動」がすべてを語っている気がします。

アマモ場の再生のためには、適した環境条件の場所が必要です。そこで、鉛直方向にアマモを植えていき、一番上で生えない場所、それから一番下で、ここまでは生えるという場所というのを経験的に積み上げていったというのが、この活動のスタートでした。

この水深帯であれば何とか再生が可能だということを確認し、その後、徐々にお金が集まってきたときに、改めてこういう調査をやってみた結果、どうだったというような段階がありました。

それから実は今年神奈川県警にお願いしまして、ヘリに乗せていただいて、空撮をやらせていただきました。野島海岸移植箇所と海の公園移植箇所、それから裏側にベイサイドマリーナの移植箇所と、この3カ所でやっているんですが、その写真を撮影しました。

野島の海岸は、約500メートル位の海岸です。これは横浜市の海岸線（延長140キロ位）の内、唯一残された自然海岸です。最後に残っている自然海岸、非常に愛されている場所です。かつてはアマモもいっぱい繁茂していた場所ですが、環境条件が悪くなってきて、アマモ場は衰退して、なくなっていった場所です。そこで、再生を始めました。

海の公園は、横浜市の沿岸が埋め立てられたときに、その代替的に人工海浜がつくられた場所です。もう10年以上たっています。当時、人工海浜をつくるということは否定的だった時代というのがあったんですけども、10年経過してみると、実は自然の海岸とそう遜色ないような状況に変わってきて、人工海岸というのはそう悪いことじゃないと言われている場所です。

東京湾内で唯一、アサリが無料で採取できる場所で、年々増加しています。5月のときに1日に4万人ぐらい人が出ます。沖縄の座間味島では、年間の観光客数が4万人と言っていました。つまりその人間の圧力というのは、実はものすごくかかっている場所だということでもあります。そういう場所でアマモを植えております。

1つのキーワードかなと思っているんですが、つくった後の管理というのが非常に重要なんじゃないかと思っています。

それとモニタリングも管理といった意味では、モニタリングをやってデータをとるとというのは、最低限のマナーじゃないかという気がしています。管理をし、何かあったときにどうにかしようという話には、データはあるかという話が必要出てくるわけですし、この「モニタリングをする」、それから「管理をどうしていく」というのも非常に重要なことだと思います。

アマモの事業のシステムというのをガイドブックとして作成して、いろいろな人に見てもらいましょうというのをやって、冊子をつくりました。事業を12のステ

ップに分けて、こういうステップを一つ一つ踏みながらやっていっていますというのが照会されています。

この冊子によりますと、ステップ1に共同体をつくらうとあります。皆さん、おわかりだと思いますけど、こんなもの、最初からできるわけがありません。例えば自然再生推進法の中での協議会というのをイメージしていただくとわかると思うのですが、協議会をつくってから動こうとすると、現実的には動きません。継続してやりながら、徐々にその仲間を増やしていった結果、適切な協議会あるいは共同体ができていくという考え方でやっていった方がいいのではないかという気がしています。

その中では勉強会、春先の種とり、種の選別、適地の選定、播種作業、苗を育ててその移植をやります。その間に毎月モニタリングをやって、モニタリングの結果をわざわざ漁協の会議室を借りて報告会を行っています。これを繰り返していくと、多くの漁協の方も応援者になってきます。そういう効果というのもありますし、それから年に一回、活動成果報告会を西柴小学校の子供たちも含めて、活動を支えてくれている仲間と一緒にやっています。

50年かけて東京湾は環境が悪くなってきたと、振り返ってみると思うのです。やはり50年以上かけてやっていかないとよくなっていかないと感ずります。やがて彼らが主役になる仲間となるのですから、その場を活用していただいています。

そういうことで活動していますが、1つ、システムとしておもしろい話がありましたのでご紹介します。2005年7月にベイサイドマリーナショッピングモールにて、海の環境を考えるイベントの一環として、「海を守ろう」ということで、チャリティーオークションをやっていただきました。東京湾の沿岸部は企業が7割くらい占有してしまっていて、思うようにご協力が得られないような状況というのが多くあります。ただ一方で、マリーナとしてやっているアウトレットのショッピングモールがありまして、そこの方々が、このアマモ場再生のためにチャリティーオークションをやってくださいました。その成果を寄附していただいて、財源の一部にするというのをやり始めたというところでした。

【ポイント】活動に参加される方たちのリピーター率が非常に高いです。もしかしたらディズニーランド以上かもしれない。活動への参加者というのは年々確実に増加しています。去年あたりで年間の参加者の累計で2,000人ぐらいでした。

【ポイント】事業調整会議というのがあり、複数の団体が参加しています。それぞれ広報活動や学校でのインフォメーションなどもあり、口コミで参加者や協力者が増えてきている状況です。

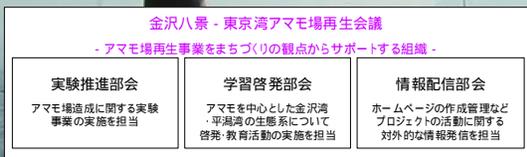
アマモリバイバルプロジェクト

(多様な主体の協働による金沢湾周辺のアマモ場再生)

Amamo Revival Project

Multi-sectional Collaboration for Eel-grass bed restoration around Kanazawa bay

協働で行うアマモ場再生プロジェクト



定期的に会議を開催し情報の共有と実施に関する事項を調整

事業調整会議

- 関係機関が協議し横断的な連携を図り事業を円滑に推進されるようサポート -

- 国土交通省 関東地方整備局 港湾空港部
- 神奈川県 環境農政部 水産課
- 横浜市 港湾局 環境保全局、都市経営局、緑政局
- 金沢区 区政推進課
- 神奈川県水産総合研究所
- 横浜市環境科学研究所
- 横浜市臨海環境保全事業団
- 横浜市野島研修センター
- 金沢八景 - 東京湾アマモ場再生会議メンバー

協働で行うアマモ場再生の手順

- Step. 1 アマモ場再生のための協働体をつくらう
- Step. 2 協働作業の実施方法をみんなで考えよう
- Step. 3 アマモの生態や造成法等をみんなで学習しよう
- Step. 4 健全なアマモの種子をみんなで採取・選別・保存しよう
- Step. 5 専門家を中心となりアマモ場の再生地を選定しよう
- Step. 6 アマモ播種のための作業許可等を申請しよう
- Step. 7 アマモの播種基盤をみんなで作成しよう
- Step. 8 アマモの播種基盤をみんなで海底に設置しよう
- Step. 9 発芽・生育中のアマモをみんなで守ろう
- Step. 10 アマモの発芽・生育状況をモニタリングしよう
- Step. 11 アマモの生長具合をみんなで見届けよう
- Step. 12 協働作業で得られた成果をみんなで共有化しよう

横浜の海辺にはかつてアマモ場がいたるところに存在し、様々な海の生き物が生育する海のゆりかごとなっていました。アマモ場は、海中の過剰な栄養分を吸収し、通過する海水をろ過する作用もあるなど、きれいな海を取り戻すためにも重要な役割を果たします。

こうしたアマモ場の自然を再生し、海の生き物を取り戻すことで、かつての「海と暮らした横浜」の再生となるまちづくりに活かしていくことが期待できます。

このようなポテンシャルをもつ金沢区白帆地先水域(ベイサイドマリーナ浅場)は、全国都市再生モデル調査のモデル事業地区として認定を受け、アマモ場再生を切り口に、海辺のまちづくりのあり方について、行政・漁業者・NPO・専門家・研究機関・関係企業・市民等の幅広い関係者による協働作業が行われました。対象地区であるベイサイドマリーナ浅場は、市民が親しみやすい場所、アマモ場再生の実現可能性が高い場所です。

アマモの播種基盤をみんなで作成しよう



アマモの生態や造成法等をみんなで学習しよう



健全なアマモの種子をみんなで採取・選別・保存しよう



みんなでアマモの播種基盤を海底に設置しよう



活動の目指すもの

東京湾全体の生態系や海的生活文化の再生を目指して、市民・NPO、企業、大学・研究機関、小・中・高校、漁業・遊漁組合、行政等が協働して、金沢湾周辺のアマモ場の再生に関する情報交流、研究支援、啓発、実践活動を行うこと

活動場所について

横浜市金沢区内 (野島 海の公園、ベイサイドマリーナ)
横浜市は沿岸の開発が進み、環境が悪化し、市民が海辺に触れられる場所も少なくなってきた。横浜に残る最後の自然海岸である野島、復元された人工海浜の海の公園、マリ・ナに隣接する事後的に造成された浅場のベイサイドマリーナの3箇所で活動している

活動期間、頻度について

本活動は平成15年度(2003年6月)から実施しており、アマモの花枝採取、種子選定、苗床作り、播種、移植(年に各1回程度)及びモニタリング調査(ほぼ毎月)を実施している。また、これらの活動を市民や小学生等にも呼びかけています。市民や小学生たちは海の自然環境やアマモの役割等を学習しながら、様々な作業に参加している。活動の様子は、ホームページ等で紹介し、漁業者を交えたアマモ育成状況の報告会(3ヶ月に1回程度)や、年間の活動や今後の方向性を話し合うシンポジウム(年に1回)を行うなどの広報活動も行っている。

関係者について

以下のメンバーで事業を円滑に進めるための、事業調整会議を実施

行政

- 国土交通省関東地方整備局港湾空港部、神奈川県環境農政部水産課、神奈川県水産技術センター、横浜市環境創造局・港湾局・都市経営局・環境科学研究所
- 横浜市南部公園事務所、野島研修センター、臨海環境保全事業団

市民団体等

- 金沢八景 - 東京湾アマモ場再生会議(海辺つくり研究会、海をつくる会、金沢野島クラブ、ガールスカウト神奈川53団、ふるさと侍従川に親しむ会、東京湾岸パードウォッチング)
- 横浜市漁業協同組合、横浜ベイサイドマリーナショップス&レストランツ、横浜オリオンロータリークラブ、セブン-イレブンみどりの基金

学校等

- 横浜市立大学、横浜国立大学、関東学院大学
- 横浜市西柴小学校、金沢小学校、文庫小学校、能見台南小学校、釜利谷南小学校、金沢高校、本郷台中学校

2005年7月には、ベイサイドマリーナショッピングモールにて海の環境を考えるイベントの一環として「海を守ろう! チャリティーオークション」を実施し、その売上をアマモ場再生活動に活用した。



金沢八景 - 東京湾アマモ場再生会議

(連絡先) 〒220-0023 神奈川県横浜市西区平沼2-4-22 ジュネスサキ202号 海辺つくり研究会内 TEL 045-321-8601 FAX 045-317-9072
(インターネット) <http://www.amamo.org/>

Amamo Revival Collaboration in Kanazawa-Hakkei

(Contact point) 2-4-22-202, Hiranuma, Nishi-ku, Yokohama, 220-0023, Japan Phone +81-45-321-8601 Facsimile +81-45-317-9072
(Web page) <http://www.amamo.org/>